

1. あいさつ

白山高等学校長

昨年度から生徒の自尊感情を高めるための教育活動を積極的に実施している。地域のご協力をいただき、地域と連携した課題解決学習に力を入れている。生徒は発表する機会を通して自信を付ける事ができてきている。

三重県教育委員会 教育政策課 小瀬古さん

総括的な振り返りを行なった上で、次の段階(あり方)を考えていく。本日もこれまでの時間を振り返る時間を持ちたい。

2. 委員自己紹介

新規委員の方のみ、ご挨拶

3. 協議事項

(1) 令和3年度 会長と副会長の選出について

引き続き、会長 吉田 健一さん、副会長 岩崎 忠弘さん。承認。

(2) 令和3年度 「学校マネジメントシート」について：P1~ <議長：吉田会長>

主な部分は昨年度と同様。追加、訂正箇所あり。

- ・昨年度の失敗例や課題例があれば教えてもらいたい。
- ・例年地元企業の相談会を開催し、少人数で丁寧にお話しを聞ける場を設けている。生徒にも好評であるが、昨年は数を集めることができなかった。
- ・昨年は、新型コロナウイルスのため長期インターンシップを1年間通して実施できなかった。その代わり、校内で出来ることを工夫して行ない、社会人に必要な知識を伝えることができた。今年も1学期はインターンシップが中止となり、昨年の実践を継続している。
- ・ユニバーサルデザインの授業実施に取り組んでいるが、先生方への認知度が70~80%という結果で、教員も全員が理解できる状況にしたい。
- ・昨年度12月からICT機器が導入され、ICT活用も含めた授業のユニバーサルデザイン化を進めていく必要がある。まずは、教員間の意識を高める必要がある。
- ・挨拶、身だしなみなどよく出来ている。しかし、JR添乗指導を乗車して行ないため、乗り方のマナーについてお叱りを受けることがあった。
- ・昨年度インターンシップ関係を実施出来ていない。2年のインターンシップの存在意義などを、検討していく必要がある。

- ・学校のマネジメントシートは1年単位で変わっていく状況の中で、毎年新しいスタートの中、苦勞されていると察する。運営委員会メンバーがどのように関わっていくかが大切なのではないか。
- ・今年度中学校ではGIGAスクール構想の中、今まで 立ち歩くことが多かった生徒もタブレットを使用すると、1時間座っていられた。評価と指導の一体化など変化のある中、高校の対応もそういうものも期待している。
- ・ICTに関して危機を感じている。準備期間が短く、来年度4月から各家庭の負担で購入いただくことになる。どのように有用に活用していくのが課題である。

(3) 令和3年度 白山高校「学校運営・活性化協議会」年間計画について：P6

別紙の通り。

<議長：校長>

- ・例年通り、3つの部会を開いていきたい。
- ・テーマごとに部会を開き、それぞれ参加出来る委員の方が参加する形で実施したい。
- ・3年生「長期インターンシップ」は、1学期は中止となった。2学期からスタートの予定である。

(4) 活性化プランマネジメントシートについて：P7～

別紙の通り

- ・白山高校の魅力化を図っていく。統廃合も含め、来年度からの白山高校をどのような形で存続させていくのかを検討していきたい。
- ・白山高校モデルというものがあれば教えてもらいたい。白山高校とコラボして、商品を開発しよう！など、やっていってはどうか？
- ・3年生のインターンシップを活用して、やまちょう、全勝堂と、白山高校のコラボで、「いちご大福を作ろう」というお話しがある。また、白山高校前のぶんでんから、コラボしたいという声を頂いている。
- ・H29年度から5年間、県立学校活性化計画に基づき取り組んできた。別日程で7月にも会議を持ちながら、大きく2回の設定で総括的検証をしながら、今後のあり方を考えていっていただきたい。県の教育改革推進会議へ白山高校の状況を総括し、まとめたものを提出することになっている。
- ・別紙P15からが、活性化の取組結果である。
- ・活性化の取組期間を、3年を原則とし、入学者の状況、生徒の進路実現の状況、活性化の取組など、その活動と成果について毎年度検証を行い、3年経過後にその後の方向性を検討する。必要に応じて、学級減を行なうこととする。
- ・活性化計画最終年度の平成33年度（今年度）、総括的な検証を行い、その後のあり方を改めて検討することとしている。そのための検証1回目が本日の会議である。
- ・検証内容は、①入学者の状況 ②生徒の進路実現の状況 ③活性化の取組である。

- ・どのように考えて学校を存続させていくのか、ご意見を頂きたい。
- ・P19の検証についてのまとめを見ると、目指す学校像は「義務教育段階で、不登校を経験した生徒や学び直しを必要とする生徒も含め、全日制への進学を希望する生徒を幅広く受入れること」である。
- ・生徒アンケートの「授業に関して」、集中して学ぶことが出来る生徒は77%から85%と割合が上がっている。個々に課題はそれぞれあるが、全体的に集中して取り組んでいる。
- ・「授業満足度」は、72%から84%と上がっており、安心して学べる環境が整ってきたといえる。
- ・「インターンシップ受入れ事業所数」も、15から21と増えてきており、地域の連携についてご理解を頂いていると考えられる。
- ・「インターンシップの意識」、77%から79%と、高い評価となっている。
- ・「部活動の活性化」には様々なご支援をいただき、輝かしいところでは、野球部の甲子園出場、最近では弓道部が県2位入賞で東海大会へ出場、陸上部が昨年度全国大会へ出場という結果を出している。加入率としてはH29年の58%からH30年には74%と上がっている。R2年の加入率は下がっているがコロナにおおける休校措置が大きく影響していると考えられる。
- ・「生徒の進路状況」はとてもよく頑張っていたいただいており、一人ひとりに応じた進路実現に向けた指導をしていただいている。
- ・生徒会だけでなく、先生方も地域の美化に取り組んでいることで、学習環境の整備となっており、地域への愛着にも繋がっているのではないかと。
- ・地元である白山・美杉・一志からの入学生が段々減ってきているということが、少子化の影響もあるが、数字にも表れている。
- ・周辺中学からの入学状況を見ても増減がある。必要としている生徒は必ずいる。
- ・人数としては、昨年度85名から今年度83名と数は減っているが、充足率を見ると、昨年度70%から81%と上がっている。1クラスの定員が35名になったので充足率は上がった。
- ・津市で、令和7年～9年に向けて全体で180人ほど減る。1クラス40人で考えて4クラス分程度が減る。松阪市で50～60人、伊賀・名張で70人くらい減るため、津・松阪・伊賀名張で300人程度減少する。高校では、7クラス程度減っていかないといけない計算になる。
- ・令和元年に生まれた子どもが令和17年に高校入学となるが、平成元年に生まれた子どもの3分の1の数になると言われている。
- ・次の活性化計画の間に、子どもがこのような勢いで減っていくとなると、高校の形・規模・配置を大きく換えないと、全部が小規模化していく可能性があることをどうしていくのかを考えていく必要がある。

- ・現在、2クラス規模の高校は、9校ある。南伊勢高校が、南勢校舎と度会校舎に分かれているため、高校数では8校。白山高校だけが、1学年3学級規模の学校で、活性化計画に取り組んでいる。他の学校はすでに2学級になってしまっている。
 - ・昨年、県内全域で18クラスが減った中、本校は35人1学級という形で3学級残していただいた。
 - ・来年は最後の安定した年で、微増すると言われている。そこからは大きく減少する。
 - ・ぜひ7月の会議では、この学校をどうしていくのかというご意見を頂きたい。
 - ・現状維持は明らかに難しい。統廃合していくか、機能を限定させていくのか、2クラス規模の学校ばかりになって、部活動のない学校を作って学校として魅力はあるのかなど、どのような魅力のある学校を作っていくのか。
 - ・地域を含めてどうあるべきかということは、有識者の会議で、県の方でしていただけたらと思う。白山高校をこういう形でこうあるべきということを、7月の会議では考えていきたい。意見をまとめることは難しいが、集約を県の方へ上げていただく。
- (委員の方々からのご意見)
- ・学校のグレードは上がっている。先生方の努力がすごかったのが生徒に伝わったのではないかと。生徒達に高校生らしい姿が見えてきた。これも、一人ひとりのニーズに合った指導を行なった結果ではないか。
 - ・社会人としての資質をキーワードに、他校の生徒として見たときに、挨拶もできていてしっかりしてきた。何かに特化するのであれば、社会人として・・・という所をアピールしていくことが強みになるのではないか。
 - ・インターンシップの位置づけが大きい。今後もやっていっていただきたい。存続を考えたとき少子化として仕方がないが、どのような努力をしていけばよいか、皆と考えていきたい。
 - ・昔に比べおとなしく真面目になり、驚いている。野球で全国的に有名になり、地域密着型というのが強みなのではないか。少子化は逃れられないことを実感した。3クラスから2クラスは否めないのではないかと。しかし、美杉の子達にとっても必要な学校である。
 - ・白山は久居地域とは違い、地域に根ざしていることが強み。3クラスが残ったと言うことは、今までやってきたことが間違いじゃなかったということではないか。
 - ・白山高校は、就職する生徒も多く、社会に出てモラルがある生徒を育てていけば、そういう生徒を送って欲しいと思われるような学校になるのではないかと。
 - ・職員の意見も束ねて、次の会議に出していきたい。
 - ・美杉中は、46年前に出来た学校で、その当時は500人いたが、現在は35名である。過疎化が進んでおり、お年寄りが多い。学校がなくなると寂しい。上野の農・工・商が合併し、実業高校がこういう風に残っていくのだと思った。将来的に白山高校も腹をくくらなければならないときがくる。子ども達が来て、何か手にできる

学校になっていかないといけない。地元の方々は、自分たちがやってきたことは間違っていないと言っている。

- ・子ども達を見ていて、学校でつまずいた子や、多様な子がいる。その子に目を向け指導していること、地域の人達も学校を支えてきていることが、この学校の魅力だと思う。白山高校ならではの探究活動、大きな学校では出来ないことをやっていていただきたい。
- ・これからの津地域、久居地域全体のことを考えていかないといけない。10年後どうなっているのか、最適な形を話し合うことが必要である。
- ・県は、適正学校数はいくつだと考えるのか、小規模校が70校もある形でも良いのか、公立学校の魅力か計画を考えていく必要がある。私学がクラス数を減らしているのかなどの状況も教えていただきたい。
- ・今回と次の会議がとても重要。
- ・様々な意見を校内で交わしてから意見を言いたいところだが、それが出来ていない。地域の子達は来ないという話があるが、リモートで白山高校に来る時間が少なくても良いのではないかとか、本来は高校の中で、もっと話さなければならないことである。中学校の先生から、「白山高校へ行ったら面白いぞ」と言ってもらえる学校であってほしい。35人学級になったと喜んでしたが、法律で決まっています教員の数が増える現実があることに気付いた。
- ・将来どうしていくのかをはっきり検討してもらいたい。受検の時は、北・中・南の3つに分かれるが、活性化計画はどうして3つに分けずに6つの地域に分けて考えるのか。校長の思いとして県の方に言っていただきたい。

5 連絡事項

(1) 次回の日程について

- ・第2回 7月29日(木) 18:30~20:00

(2) その他

特になし